

第1学年 生活科 学習指導案

滋賀県大津市立仰木の里小学校 教諭 山崎 佳那子

1. 単元名 たのしい あき いっぱい

2. 単元の目標

秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったり、身近な自然の違いや特徴を見付けたりすることができ、自然の様子や四季の変化に気付いたり、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたりするとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとする事ができる。

(知識・技能)

- ・秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることの面白さ、自然の不思議さに気付いている。

(思考・判断・表現)

- ・秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとしている。

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、本校に隣接している「みのりの森」を教材として取り上げる。本校では毎週水曜日の昼休みに開放され、入学当初から子どもたちの遊び場であり、身近な存在の森である。

児童が「みのりの森」に日頃から足を運び、自然と関わることで、四季の変化に気づくとともに落ちている葉や木の実で遊んでみたい、友達と拾った物を使っておもちゃを作ってみてみたいなど、意欲を高めることができる。

また、六年間を通して「みのりの森」で遊びや学習を行うことで、本校のシンボルであり本校ならではの魅力であることに気づくことで、自分が通う学校への愛着をもつことができる。本校では、低学年では生活科の学習で、中学年高学年では総合的な学習の時間に「みのりの森」を教材として取り扱っている。単年で学習を終えるのではなく、学年が進む中でも様々な形で「みのりの森」と関わることで、上学年になると「みのりの森をもっと楽しい場にしたい」「みのりの森の自然がこれからも豊かであってほしい」という思いをもち、自ら「みのりの森」に対するアプローチを考えることができる。

1年生の段階では、みのりの森の豊かな自然に触れることで、自然の面白さや楽しさを感じ、「遊んでみたい、作ってみてみたい、試してみたい」という思いをもつ学習を行う。「みのりの森でドングリを拾おう」「赤い葉や黄色い葉が欲しい」と目的意識をもつことで、児童が自然とみのりの森が身近な存在となることのできるよさがある。

(2) 児童観

1学期の生活科の学習「きれいにさいてね」では、児童が5種類の種から育ててみたい種を選び、育ててきた。葉が虫に食われてしまった時には、これまでの経験や家族の様子を思い出しながら育てている植物をどのように守るかを考え、友達と考えを交流しながら支柱に虫や鳥よけを取り付けた。自宅からCDを持参し支柱にぶら下げる子や、大き目のビニール袋で覆いをする子、ビニールテープやスパンコールを支柱に付けるなど、虫や鳥が近づいてこないための工夫を考え創作した。また、なかなか自分の育てている植物が成長しないという友達の困り感をクラスで共有した際には、「真ん中の支柱を抜かないと、茎が伸びないから抜いてみよう」「たくさん植えているから、1本抜いてみるといいんじゃないか」と困った時には友達の考えや経験を聞いて、試してみようというような友達との関わりの中で学びが生まれる土壌が少しずつ出来ている。

本単元に入る前に、本校2年生の子どもたちによる「おもちゃランド」に招待された。おもちゃで遊ぶ楽しさや、2年生の子どもたちに優しくわかりやすく遊び方を教えてもらったことに感銘や刺激を受け、今度は自分たちが幼稚園の子たちを招待できることへの意欲を高めることができた。休み時間にも運動場やみのりの森のドングリスポットに足を運び、たくさんのドングリを拾ってことに熱中している様子も見られる。異年齢の子たちとの関わりをととても楽しみながら、自分たちはこんな秋のおもちゃが作りたいと創作意欲も高めることができていた。

一方で、継続して観察することやお世話すること、創作することが難しい子がいる。興味をもった期間は熱中できるが、一定期間が過ぎると飽きてしまいいつの間にか活動を止めてしまっている。友達と一緒に決めて続けていたことも、話し合いがしきれずに自分の思うように行動をしてしまう所もあるため、自分なりのこだわりを見つけ、楽しみながら継続して考え行動できる力を身につけさせたいと考える。また、自分の思いやこだわりをもちにくい子もいる。どうすればよいか迷ってしまい教師に意見を求めてしまうので、全て教師が導くのではなく、選択肢を与えて決定は自分とするなどし、自分の思いで完成することができたという達成感を味わわせたい。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、児童のこだわりや思いを最大限に生かせる場づくりを行いたい。

まず、材料と道具を安全に自由に使える環境づくりである。できる限りみのりの森へ足を運び、たくさんの落ち場やドングリ、木の実を拾う。児童自身が見つけて拾うことで、葉や実の色や形に注目させたい。拾ってきた葉や実は、クラスで共有できるように種類ごとに容器に入れ、おもちゃを創作する際にいつでも使えるようにしたい。

次に、同じ学区の幼稚園をお願いをし、5歳児さんを「あきのおもちゃランド」に招待する機会を設けたい。事前に学年での「あきのおもちゃランド」を実施し、同学年の子たちでおもちゃランドを担当する時間、遊ぶ時間を両方経験することで、5歳児さんを招待するときに必要なことを考えさせたい。相手意識をもつことで意欲を高め、自分の思いやこだわりを表現する場となるようにしたい。

また、みのりの森だからこそドングリや木の実がたくさんあったということを単元の終わりに振りかえりをさせたい。「ドングリスポット」「栗スポット」という言葉を用いてみのりの森の中での気に入りの場所を見つけている。活動を通してみのりの森が身近で素敵な場であることが子ども

の心に残るようにし、みのりの森がお気に入りであるという思いが自然と芽生えるようにしたい。本校4年生からもみのりの森の魅力について聞いて学ぶことで、「自分もみのりの森に もっと足を運びたいな」「お兄さんお姉さんが教えてくれたことを確かめたいな」「みのりの森でこんなこともしてみたいな」という目的意識をもてるようにしたい。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

相互性…自分と自然の関わりがたくさんあることに気づく。みのりの森に足をたくさん運ぶことで、みのりの森と共に生活することに気づく。

有限性…森や木、自然でこれからも楽しみたい、大事にしたいという思いをもつ。

連携性…友達と力を合わせて取り組むこと、自然を守っていこうとする思いをもつ。

・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

園児がわかりやすく、安全に遊べるために、どんな準備が必要になるのかを考え、実行する。年下の子たちの行動や思いを想像し、思いやりの心を育みながら計画を立てる。

他者と協力する態度

あきのおもちゃランドが、よりよい場所になるために、友達や園児が楽しめる場所になるために、友達とアイデアを出し合い、折り合いをつけながら自分たちの思いを実現できるように協力する。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

自然環境、生態系の保全を重視する

いつも楽しく遊んだり、探検したりしているみのりの森の自然を守っていくために、6年間をかけて自分がみのりの森とどのように関わっていくのかを考えていきたい。

世代間の公正

自分たちの親の世代の方々が植えたたくさんの木が元気に育ち、自分たちとこれから入学してくる人たちも、みのりの森で学習したり遊んだりすることができるために、自然豊かなみのりの森を大切にしたい。

・ 達成が期待される SDGs

15 陸の豊かさも守ろう

17 パートナーシップで目標を達成しよう

4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①色や形、においなど、秋の自然の様子と夏の自然の様子との違いに気付いている。</p> <p>②季節によって楽しめる遊びが変わるなど、季節によって生活の様子が変わることに気付いている。</p> <p>③いつも同じ現象が起こるなど、自然の中に一定のきまりがあることに気付いている。</p> <p>④自分が遊びを創り出したことで、みんなが楽しく遊ぶことができるようになったことに気付いている。</p>	<p>①秋の自然の変化を予想して、夏の自然との違いを探している。</p> <p>②秋の自然物を使うと、どんな遊びになりそうか想像しながら、遊びに使う自然物を選んでいる。</p> <p>③様々な自然物を試しながら比べ、材料を選び、おもちゃを作っている。</p>	<p>①幼児期や日常の経験を思い起こして、秋の自然の特徴を探している。</p> <p>②秋の自然と関わりたいという思いをもち、試行錯誤しながら秋の自然を生かした遊びやおもちゃ作りを楽しもうとしている。</p> <p>③自分で遊びを創り出す楽しさを実感し、これからも遊びを創り出そうとしている。</p>

5 単元の指導計画（全21時間）

学習活動	学習への支援	評価・備考
<p>1 こうていであきをさがそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みのりの森を探検しよう ・秋のTシャツやさん 	<p>○活動してよい範囲を限定し、事前に危険箇所や行動について指導する。</p> <p>○観察と遊びを区切らず、自由に活動させる。</p> <p>○児童の言葉から、「お気に入りの場所なんだね」と声をかけたり、「ここに行くとこんなものがみつかるんだね」とみのりの森の中でも、自分の見つけた楽しめる場所を意識づける。</p> <p>○秋のTシャツやさんでは、Tシャツの形にくりぬいた画用紙を渡し、視野を狭めて葉や実を観察できるようにすることで、全体を見ているだけでは気づけない細かい部分に目を向けられるようにする。</p> <p>○振り返りでは、拾った葉や実でどんなことがしてみたいか、できそうかを考えさせ次の活動への見通しをもたせる。</p>	<p>ア①②</p> <p>ウ①</p>
<p>2 こうえんであきをさがそう</p>	<p>○葉の形や色の変化に気付けるように、ビンゴカードを準備し、観察の視点をもって楽しく活動できるようにする。</p>	<p>ア①②</p> <p>ウ①</p>

<p>3 はっぱやみであそぼう</p>	<p>○製作活動がしやすいように、道具や材料の分類をしておく。</p> <p>○教科書や、工作の本も提示し、児童が作り方に困った時やアイデアが考えられない時の手がかりになるようにする。</p> <p>○児童がこれまで秋の自然でどんな遊びをしてきたか想起させる。</p>	<p>イ② ウ②</p>
<p>4 あきのおもちゃをつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生のおもちゃランドで遊ぼう ・ あきのおもちゃをつくろう ・ つくって試そう ・ 5歳児さんが安全に楽しく遊べるために、考えよう ・ 友達やお家の人に意見を聞こう ・ 5歳児さんに招待状を書こう 	<p>○2年生のおもちゃランドで、2年生が考えたおもちゃで楽しむ中で、ルールの説明や看板があったことや、景品をもらったことなど、2年生から学んだことを適宜想起させ、園児の立場や視点をもって創作に取り組めるようにする。</p> <p>○教師がつくったおもちゃを提示したり、教科書や、資料となる本を提示したりして製作への関心を高め、活動の幅を広げる。</p> <p>○同じ種類の物をつくっている児童は近くで作業させ、互いの共通点や相違点、困り感を共有させる。</p> <p>○園児を招く前に、クラスや学年の友達、保護者を招き、招く側も招かれる側も体験しながらおもちゃを改善したり、意見を聞いて友達と協力したりしながら創作を進めるできるようにする。</p>	<p>イ③ ウ③</p>
<p>5 いっしょにあそぼう</p>	<p>○園児が楽しく遊ぶために、おもちゃや遊びのルールを改良するよう促す。</p> <p>○活動の中で、園児の様子を気にかけてたり、園児に感想を聞いたりするように言葉をかける。</p> <p>○園児が1年生が作ったおもちゃで遊ぶだけでなく、園児も一緒に作ったり遊べたりできる体験コーナーを設ける。</p> <p>○園児が安心して遊べるように、声のかけ方を考えさせる。児童同士が上手く関わっていない所へ教師が入り、繋いでいく。</p> <p>○単元を通して、「どんな風にしてみたい？」と自分がやってみたいことをイメージできるような声かけと、自分で選択できるような関わりを行っていく。やりたいことが表現できるように、道具や素材の準備や整備を行う。</p>	<p>ア③④ ウ③</p>

